

2011 年度夏期語学研修（中国）報告

山本 忠[†]

A Report on Summer Chinese study in Shenyang University of Technology in 2011

Tadashi YAMAMOTO[†]

ABSTRACT

The sixth Summer Chinese study program for the students of Hachinohe Institute of Technology was held in Shenyang University of Technology, China.

Five students joined this program, and they achieved good results and made progress in studying Chinese language and developed their understanding of inter-culture in this program, too.

Key Words: *Shenyang University of Technology, Chinese language, understanding of inter-culture*

キーワード: 瀋陽工業大学, 中国語, 異文化理解

1. はじめに

第6回目の中国語学研修が昨年に続いて実施できた。ここ数年疫病の流行や中国社会を取り巻く諸事情の影響を敏感に反映して、参加希望者が催行可能人数に至らず、実施を見送った年もあった。今年の参加者は少数ではあったが、2年連続して実施できたのは幸いであった。

中国は経済発展が目覚しく、社会の変化も速い。山本は前回の引率が第2回の2002年なので、それから9年経過している。そのため特に生活条件などで違いを感じた。

2. 授業科目としての位置づけ

本研修は、新カリキュラム適用生、すなわち1年生から3年生までは後期の集中科目「海外研修」として開講される科目である。八戸工業大学での事前研修と現地中国での研修および帰国後の感想文レポートで成績を評価し、合格すれば1単位が与えられる。

3. 参加者

今回の研修に参加した学生は、大浦一仁（I科3年）、晴山佳映（I科1年）、三田瑞翔（同）、田沢侑也（D科3年）、遠藤遙（K科3年）の計5名である。これに引率教員を加えて、航空券の団体割引が適用される人数となった。

平成24年1月6日受理

[†] 工学部システム情報工学科・准教授

4. 参加費用

今年は瀋陽工業大学から中国国内の諸物価高騰を理由に研修費を昨年より100ドル値上げしたい、との申し出がありこれを了承した。一方、外貨為替レートは円高傾向にあり、また学内（基礎教育研究センター）から一人当たり24000円の補助を頂き、その分負担を軽減することができた。

結局、参加費用は92304円と10万円以下とすることができた。主な費目は次の通りである。

航空券（成田⇄大連）往復：49500円

燃油サーチャージ、空港税：13980円

研修費（瀋陽工大へ）：450ドル（36000円）

バス代（八戸—池袋）往復：11000円

列車代（日暮里—成田空港）往復：3400円

列車代（瀋陽→大連）片道：92元（1104円）

月/日(曜日) 活動内容：午前/午後

8/15(月) 移動（八戸→東京）

8/16(火) 移動（東京→成田⇒大連→瀋陽）

8/17(水) 大学付近散策/生活用品買い物

8/18(木) 語学講座1/市内見学(太原街)

8/19(金) 語学講座2/北陵公園

8/20(土) 語学講座3/自由行動

8/21(日) 自由行動/故宫・中街見学、散策

8/22(月) 語学講座4/張氏帥府見学

8/23(火) 語学講座5/東陵公園

8/24(水) 語学講座6/9.18歴史博物館見学

8/25(木) 語学講座7/遼寧省博物館

8/26(金) 本溪水洞小旅行、瀋陽工業大学中央キャンパス見学

8/27(土) 買い物(中街、鉄西区)/日中学生交流

8/28(日) 自由行動/買い物(中街、太原街)

8/29(月) 移動（瀋陽→大連）/大連市内散策

8/30(火) 移動（大連→成田→東京）

8/31(水) 移動（東京→八戸）

5. 事前研修と現地研修

5.1 事前研修

瀋陽工業大学での語学講座への備えとして中国式ローマ字による基本的な発音と会話の練習をし、また中国での生活に馴染めるように社会事情、現地研修中の諸注意の説明として次に示すように事前研修を3回計5時間行った。

8月3日（水）10：00～12：00

8月4日（木）10：00～12：00

8月5日（金）10：00～11：00

5.2 現地研修

今回の行程と研修日程は下記の通りである。研修日程についてはほぼ例年通り午前は語学講座、午後は各地見学や自由行動に当てられた。

ただ、渡航経路は後述するように、運行スケジュール変更により千歳—中国便の利用がかなわず初めて東京発着となった。

6. 語学講座

授業は宿舎から歩いて数分のところにある講義棟の小教室で行われた（写真1）。エアコンはないが9階なので窓を開ければ心地よい風が通った。



（写真1）

テキストは北京語言大学が出版した留学生用の《漢語教程》第一冊上を用い、7回の講座で全15課を仕上げた。内容は初歩的で実用的な日常会話である。一例としてテキスト第9課の本文を抜き出し、和訳を付して掲げておく（テキスト本文には中国式ローマ字も載せてあるがここでは省略する）。

〔中国文〕

第九課 我換人民币

玛丽：下午我去图书馆，你去不去？
麦克：我不去。我要去银行换钱。
（在中国银行换钱）
麦克：小姐，我换钱。
营业员：您换什么钱？
麦克：我换人民币。
营业员：换多少？
麦克：二百美元。
营业员：请等一会儿。先生，给您钱。请数数。
麦克：对了。谢谢！
营业员：不客气！

〔和訳〕

第九課 人民币に換金します

マリー：私は午後図書館に行くけど、あなたは行きますか。
マイク：僕は行かない。銀行に換金に行かない。
（中国銀行で換金する）
マイク：すみません、換金したいんですが。
窓口係り：どの通貨に換金しますか。
マイク：人民币に換金します。
窓口係り：いくら換金しますか？
マイク：二百米ドルです。
窓口係り：少々お待ちください。お客様、お金です。お確かめください。
マイク：間違いありません。ありがとう。
窓口係り：どういたしまして。



（写真2）



（写真3）

国際教育学院所属の趙芯萃先生が講座1と2を（写真2）、同じく遅春雪先生が講座3から7までを（写真3）担当してくれた。お二人とも外国人に対する中国語教育になれている様子が伺われた。授業は中国語で進められるので最初は先生の指示が聞き取れず、学生たちは戸惑っていたが、先生は忍耐強く繰り返し、また英語でヒントを出したり、時に身振り手振りも使った。

7. 見学、旅行、学生交流

見学地は例年と変わらないので、写真とともに簡単に紹介することにする。



(写真4)

まずは宿舎の近くの庶民的な市場（写真4）へ出かけ、腕時計を購入する（写真5）。講座で習った値引き交渉をして安く買えた。

北陵公園は清朝第二代皇帝ホンタイジの陵墓庭園で、今は市民の憩いの場になっている（写真6）。



(写真5)



(写真7)

9.18歴史博物館に展示されている旧日本軍関係の展示物（写真7）。



(写真6)



(写真8)

瀋陽工業大学の最も新しい中央キャンパスの教養棟と人造湖（写真8）。



(写真9)

張作霖、張学良父子の邸宅、張氏帥府（写真9）と張学良の銅像（写真10）。



(写真10)

かつて本学に留学した先生との交流会（写真11）。



(写真11)



(写真12)

本学に留学経験のある張軍先生の計らいで、日本語専攻クラスの学生たちと空き教室で2時間ほど交流会を開いた。はじめはお互いに遠慮がちであったが、次第に打ち解けて話が弾んだ（写真12）。

8. 生活環境

生活環境について紹介しておく。我々が宿泊したところは鉄西区の南キャンパスにある「留学生アパート」で（写真13）、ここはかつて対外ゲストハウスとして建てられた三ツ星級（最上位は五ツ星）の「南苑賓館」の建物である。



(写真13)



(写真16)



(写真14)

各部屋はツイン仕様で、ベッド、机、テレビ、エアコン、冷蔵庫、トイレが完備している（写真14）。

食事は大学前（南十三路）沿いの3軒の食堂でそれぞれ朝、昼、夕食をとった。朝食に通った食堂（写真15）は、餃子と小籠包が学生に好評だった（写真16）。

(写真15)

この3軒の食堂はいずれも大衆食堂で、中国庶民の飾らない味を堪能できた。昼食によく食べた細うどんと串肉（写真17）、夕食の店のマーボどんぶり（写真18）は薄味であっさりしている。



(写真17)



(写真18)



(写真19)

少し足を伸ばせば外資系の立派なスーパーもあったが、校門正面のミニスーパー（写真19）でほとんどすべての日用品と食料が買えた。

街へ出かけるときは、このスーパーの左角にバスの始発停留所があり、定額1元（13円）で利用できた。

9. 課題その他

9.1 募集

募集は昨年同様中国語の授業で研修の説明をした後アンケートをとり、興味を持っている学生に直接勧誘した。アンケート結果によれば、研修に興味はあると答えたものの参加費用の捻出と実施期間中、資格取得講座、集中講義、アルバイトなど他の用事を不参加の理由に挙げたものが多かった。参加費用については4で記したとおり、安全でかつ格安であると思う。

9.2 渡航経路

昨年も航空会社による突然の運行変更により翻弄されたが、今回も予定していた千歳一大連便が直前に秋まで運行休止となった。千歳一瀋陽便はそれ以前から休止になっているので、成田一瀋陽便か成田一大連便に変更せざるを得なくなった。結局空席状況と費用の点で成田一大連便を選ぶこととなり、国内移動の費用と乗り換え

の利便性について検討した結果、八戸→池袋→日暮里→成田となった。国内の長距離移動に夜行バスを使ったため費用は安く抑えられたが、大連に到着するまでに相当疲労した。乗り換えについては、時間にあまり余裕がないと思われたが、これはお盆直後にもかかわらずバスの運行が時間通りでスムーズに行けた。

9.3 連絡手段

連絡、状況報告は携帯電話での電子メールと画像をメインに、急を要する場合に音声でのやり取りを補足的に用いた。バスでの移動時間やちょっとした休憩時間など手軽に使えて大変便利に感じた。

謝 辞

今年も無事研修を終えることができた。日中双方の関係者のご支援があつてのことである。瀋陽工業大学国際教育学院の任英磊処長をはじめとする現地スタッフには本当にお世話になった。また本学基礎教育研究センターの皆様からも学生への補助金や参加者募集でご理解とご協力いただいた。連絡係りの渡辺教授からは前年度引率者として貴重な助言をいただいた。最後に研修に参加した学生諸君は不慣れな環境の中ややハードな研修に最後までお付き合いしてくれた。心から感謝する次第である。

要 旨

八戸工業大学第6回目の中国語学研修が中国瀋陽工業大学で行われた。5名の学生がこの企画に参加し、中国語のレベルアップと異文化理解の推進など良好な成果を得た。

キーワード: 瀋陽工業大学, 中国語, 異文化理解